読者の声

☆まず地元の人

道の駅が非常時に頼られる存在になるためには日頃から地元の人によく利用される必要があります。観光も必要でしょうが、地元、そしてプロのドライバーなどのリピーターに親しまれる駅にしてください。（東京都練馬区　公務員・57歳）

☆情報案内人を

地元の特産品、土地の言葉に出合える楽しみも大きいのですが、何よりも情報提供を望みます。多少マンネリ気味でも構いません。多少マンネリ気味ではないですか。（新潟市　会社員・55歳）

☆真剣に守る！

本紙18号を読み、多くの人々がいかに真剣に国民・国土を守る努力をしているかを知りました。特に、岩手・宮城内陸地震発生時の、日本橋梁建設協会による「周辺の橋の全点検」という素早い対応には驚きました。心強いかぎりです。（山梨県鳴沢村・53歳）

☆ますます期待

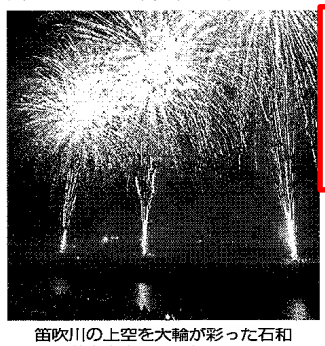
先日の岩手・宮城内陸地震はすさまじいものでしたが、あれだけ道路が寸断された状況の中で、道の駅の役割はますます重要になってくると思います。災害時の人々の拠点として一層期待が高まります。それに応える施設となるよう、整備を続けてください。（神奈川県茅ヶ崎市　会社員・37歳）

☆毎号ほしいが

本紙のどのページも魅力的ですが、18号では特に「橋がつなぐみんなの未来」がよかったです。毎号本紙を入手、というわけにもいかないのが残念ですが、見かけたら必ず手に取っています。これからも楽しみにしていますよ。（岡山県玉野市　アルバイト・26歳）

☆延長は困難か

午後5時閉店という道の駅が多いようですが、日帰り旅行で、行きに土産の下見をし、帰りに…と考えていても、閉店していて残念！というケースが間々あります。閉店時間の延長というのは、困難なことなのでしょうか。（広島県福山市　会社員・58歳）



笛吹川の上空を大輪が彩った石和温泉花火大会＝2007年8月21日

☆土がついてて

曲がったキュウリ、虫食いのキャベツ、なんでもOK、土がついていていいんです。これこそほんとうの国産、喜んでいただきます。生産者の方々どうぞ売ってください。いつも旬の品をありがとうございます。（埼玉県川口市　主婦・61歳）

☆へこたれずに

本紙18号の「へこたれずに頑張る」――道の駅が最前線で社会貢献している姿に感動しております。いつ、どこで起きるか分からない地震災害。防災拠点として道の駅が活用されることで、人々への大きな貢献に寄与していきます。そして、本紙などで災害時に道の駅が防災拠点になっていることを知りました。とにかくひと安心です。（山形県尾花沢市　介護員・35歳）

☆山で救われて

岩手・宮城内陸地震で宮城県栗原市花山地区の山の中におり、ヘリコプターで救出されました。九死に一生を得た自らの体験を通じて、道の駅が防災機能を強めていることにたいへん心強い思いをしています。（仙台市　自営業・60歳）

☆職場で震災に

本紙が、岩手・宮城内陸地震について多くのページを割いて取り上げてくださったことに感謝します。私は居住地では被害に遭いませんでしたが職場（栗原市築館）で駐車場にひびが入り、建物もひび割れました。被災県に住む者として、道の駅でのボランティアサービス活動の記事を読みあらためて心強さを感じました。（宮城県松島町　会社員・55歳）

☆郷土愛感じる

本紙はカラー遣いも鮮やかになり、とても見やすくなったと思います。風景街道はじめ地域紹介の記事から、その地に根付いた人たちのボランティア精神や郷土愛を感じ取りました。グリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズムという言葉も教えられその美しい響きに魅了されています。情報満載！次号も楽しみです。（岐阜県飛騨市　パート・58歳）

☆新連載に期待

やはり地元北海道に関する記事に、まず目が行きます。新連載の「橋がつなぐみんなの未来」とても美しい風景ばかりです。北海道にもよい所があるので、ぜひ紹介してください。（札幌市　公務員・48歳）

☆特産品増えた

地震のときに一番大切なのが水と食糧です。道の駅にはその供給をする力があります。とても頼もしいですね。最近は、各地の道の駅で独特の特産品が増えてきたようで、立ち寄るのがますます楽しみになりました。（熊本県荒尾市　会社員・48歳）

☆安心の拠点に

自家用車での通勤、その途上で大地震に遭ったときの対処はどうしたらいいのか、いつも考えていますが分からないのに…。閉店時間を守るか、もし閉めるときにはスタンプを押せる所に置いてほしいものです。（埼玉県桶川市　パート・45歳）

☆マンネリでは

今年もスタンプラリーに参加しています。冬のラリーでは宮城県の道の駅・米山に行ったのですが、休業しており押印できませんでした。キャンペーン時は、きっちり確認し、実施するよう望みます。（埼玉県杉戸町　主婦・52歳）

☆外国品は不要

道の駅にある物産販売コーナーが最近俗化しており、その辺のみやげもの屋と変わらない所もある。店員のそんざいな応対も目立つようだ。本来の姿に戻るべきである。外国ものなど扱う必要はないと思う。地産地消を推進することが大切だ。（福島市　無職・68歳）

☆スタンプ残念

6月末の日曜日午後4時半頃、親不知に行きました。楽しみにしていたスタンプ収集、しかし、すでに閉まっていたので。今度いつ来られるかな。（神奈川県茅ヶ崎市　会社員・37歳）

◆お便り募集

このコーナーでは、道の駅をはじめ、農家レストランや、道路などに関する読者の皆様のさまざまな声を紹介していきます。

お便りはハガキで〒105―0001　東京都港区虎ノ門4―1―1　虎ノ門パストラル内　NPO法人「人と道研究会」「第19号読者の声係」宛てにお寄せください。

また、読者専用のメールBOX（dokusya@route-press 21 st.jp）を設けました。お便りのほか、写真の投稿も大歓迎です。採用分には記念品をプレゼントします。

おもしろ万葉集　奈良　正

住吉の小集楽に出でて　うつつにも
　己妻すらを　鏡と見つも
（万葉集・巻十六・三八〇八番）

大勢の里人が集まる住吉の小集楽に、妻と一緒に行った。そこで現実目の前でヨー。私の妻であるその妻をヨー。貴くて、美しい鏡を見ると同じように見たことよ!!

×　×　×

小集楽＝里の男女が、野外に出て歌舞して楽しむこと。また、神事の日、宴楽すること。或いは、歌垣・嬥歌会の行事とも。古事記・日本書紀・風土記に記録あり。神の住む山や人が集まる市場で、飲食・歌舞に興じ、夜は自由な性解放の祭りとなる。この原義は豊作祈願の予祝と感謝である。東北の筑波山・関西畿内では、大和海柘榴市・河内住吉・摂津歌垣山などで行われたようです。

オレには美人の妻がいるのだ!!

この歌には、男女が小集楽野に遊ぶ。この夫婦行くその婦、容姿端正、衆に秀でたり。夫その美を讃嘆し歌を作り、益々愛した。との一文が添えられている。

誠に感動の愛妻物語である。大勢の人なかに出て、他と比べて見て、わが妻の美しさを発見する。「青い鳥」はわが家に居たのだ!!

あまりにも身近で、日常であるために、対象の本当の姿や値打ち、その恩恵をやゝもすると忘れる。自然の太陽や水、文明の利器である電燈や車、そして父や母など、その存在が大き過ぎて、不感症になっている。感かしいことである。

サテ、この歌に次のような解釈がある。実はこの男は数日の歌垣の間に、唯一人の女性にも巡り逢うことができなかった。そこで、自棄気味、負け嫌いで、"オレには、美人の妻がいるのだ!! と放歌したのだ……と。読者の諸兄姉は、どちらだと思いますか。

本当に、万葉集の歌は、おもしろく、また、たのしいですね。自由自在にどうぞ――。

（学校法人北川学園理事・万葉研究家）

「平成万葉集」を編纂へ

短歌1000首募集

選考委員に俵万智氏ら

日本最古の歌集「万葉集」。その最終歌が759年に大伴家持によって詠まれてから、来年で1250年を迎える。これを機に、読売新聞社では「平成万葉集」を編纂することを決め、広く短歌を募集している。

万葉集は7～8世紀の間に歌われた約4500首の歌が収められている。作者は天皇・貴族から庶民まで幅広く、自然や四季の美しさ、男女の恋、死者への哀悼など、当時の人々の心を、世紀を越えて現代に伝えている。

「平成万葉集」では、現代に生きる私たちの思いをつづった短歌約1000首（一人1首）を掲載する。題材は自由。応募は一人5首まで。今年11月末、締め切られる。

選考委員は岡井隆、小池光、俵万智（以上、歌人）、檀ふみ（女優）、永田和宏（歌人）、中西進（国文学者）、リービ英雄（小説家）の各氏。

来年春に入選者を読売新聞紙上で発表し、「平成万葉集」として本にまとめる予定。入選者には、「平成万葉集」1冊を贈呈する。

募集要項

【作品】短歌（五七五七七）を一人5首まで（漢字には必ず読み仮名を）。自作の未投稿・未発表作品に限る。詳しくはhttp://m.yomiuri.co.jp/k/man-yo（ネット、携帯共通）で。

【応募方法】〒住所、氏名（ふりがな）、性別、年齢、職業、電話番号を明記し、はがきで〒104・8325（住所不要）読売新聞東京本社事業開発部「平成万葉集」係（電話03・5159・5886）まで。

インターネット、携帯サイトからも応募可能。

【締め切り】11月30日必着